

第2期阿久比町国民健康保険データヘルス計画

中間評価 概要版

令和3年12月 阿久比町

データヘルス計画について

データヘルス計画とは、健診や医療の受診情報等を活用して本町の健康課題を把握し、その解決のための効果的な施策を立案・実行し、その結果を検証して新たな取り組みにつなげるために策定されるものです。

第2期阿久比町国民健康保険データヘルス計画(以下「第2期データヘルス計画」という。)は、国保データベースシステムをはじめ、様々なツールを有効に活用しながら、地域の環境に応じた効果的な取り組みを進めていくために策定されました。計画期間は、平成30年度から令和5年度までの6か年です。第2期データヘルス計画については毎年、実施効果について検証を行ってきましたが、令和3年度に中間評価を行い、計画期間の最終年度である令和5年度に最終評価を行います。

第2期データヘルス計画では、「特定健診の受診を中心とする健康づくり」、「健診結果を活用した健康づくり」及び「医療費の適正化」の3点を基本目標として掲げ、それぞれの目標に対して保健事業を実施しています。

中間評価にあたっては、令和元年度のデータや令和2年度の事業の実施状況を元に目標達成状況や事業の実施状況等について検証を行い、必要に応じて施策の方向の再検討及び目標の見直しを行います。

第2期データヘルス計画の体系

< 阿久比町の健康課題 >

< 施策の方向 >

1 特定健診の受診を中心とする健康づくり	①特定健診の受診率向上 ②特定保健指導の実施率向上
2 健診結果を活用した健康づくり	①阿久比町の現状や健康課題の周知と啓発 ②健診結果を活用した健康づくりの推奨 ③「健康日本21あぐい計画」の推進
3 医療費の適正化	①生活習慣の改善 ②疾病の早期発見・早期治療の推奨 ③健康教育等の充実

1 特定健診の受診を中心とする健康づくり

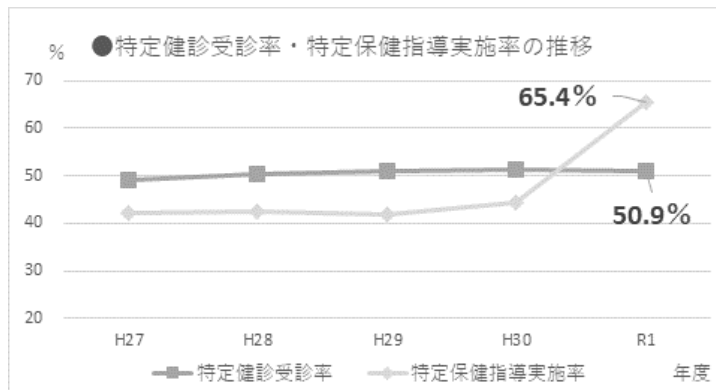
・現状と課題

特定健診受診率が目標に達していない

令和元年度の特定健康診査(以下「特定健診」という。)の受診率(50.9%)は、町が掲げた目標値(52.0%)に達していません。特に 40 歳代の受診率が低くなっています。

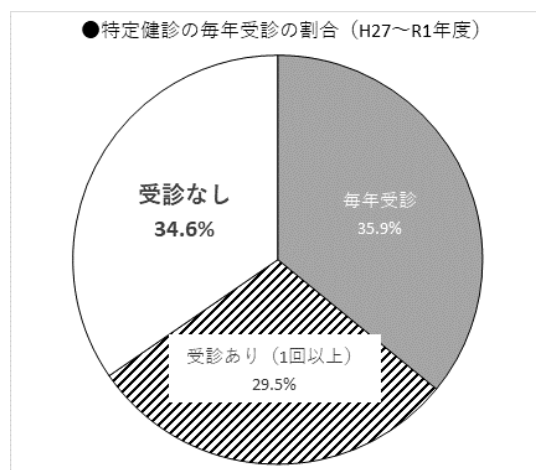
特定保健指導実施率は目標達成

令和元年度の特定保健指導実施率(65.4%)は、町が掲げた目標値(46.1%)を大きく上回っています。



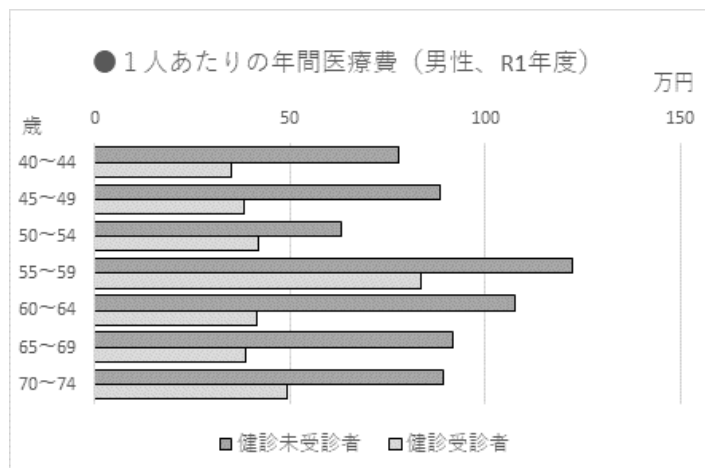
およそ 2.9 人に 1 人は、5 年間未受診

平成 27 年度から令和元年度までの 5 年間に 1 度も特定健診を受診していない人(34.6%)は、およそ 2.9 人に 1 人の割合となっています。



健診未受診者ほど、医療費が高い傾向

健診受診者よりも未受診者のほうが 1 人あたりの年間医療費が高い傾向がみられ、特に男性の 60 歳代で両者の差が大きくなっています。



● 中間評価を踏まえた施策の方向

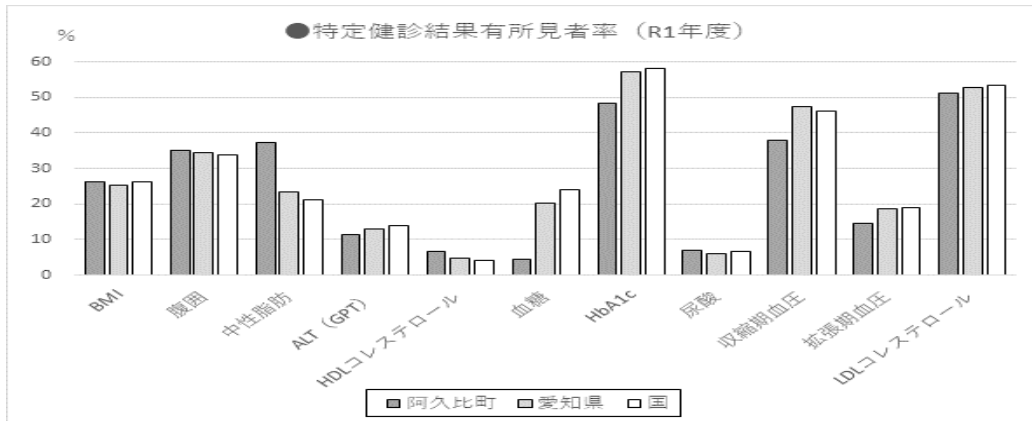
- ① 特定健診の受診率向上
- ② 5年連続継続受診率の向上
- ③ 初回受診率の向上
- ④ 特定保健指導の実施率向上
- ⑤ 特定保健指導対象者数の減少

2 健診結果を活用した健康づくり

・現状と課題

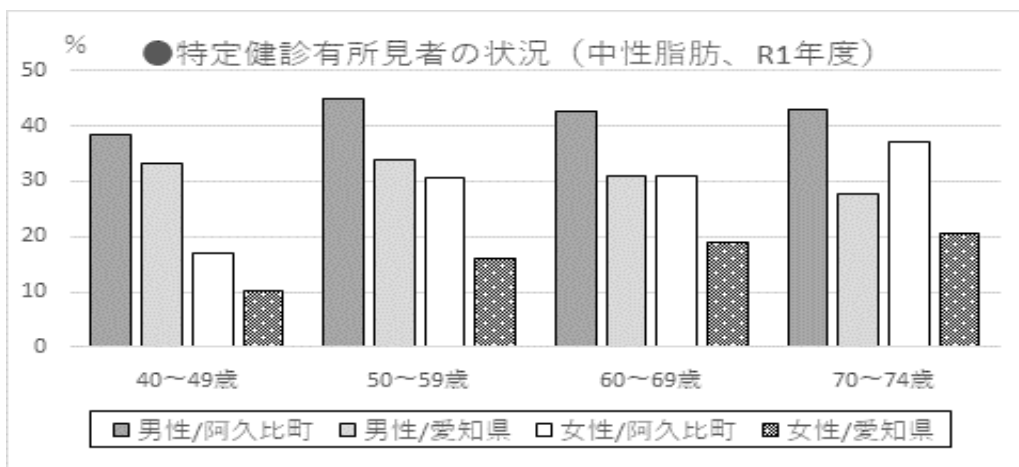
有所見率が高いのは、「中性脂肪」「腹囲」「HDL コレステロール」「尿酸」

特定健診の結果、有所見率が国や県平均よりも高いのは、「中性脂肪」「腹囲」「HDL コレステロール」「尿酸」です。



男女ともに、中性脂肪の有所見率が高い

男女ともに、50～74歳で愛知県を大きく上回っています。脂質異常症と関連した高血圧疾患、脳血管疾患等の罹患に直結する可能性が高く、早期に予防・改善していく必要があります。



健診結果を活用した健康づくりの事業継続

特定保健指導の実施率が令和元年度に大きく増加したため、健診結果を健康づくりに活用している方が増えていることが想定されます。

● 中間評価を踏まえた施策の方向

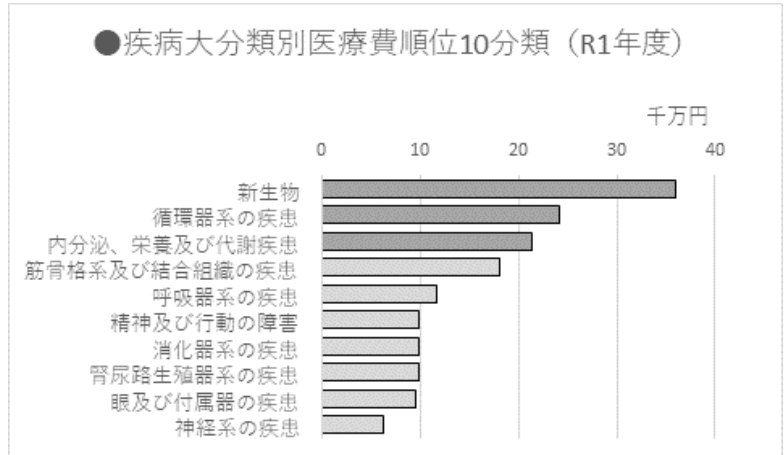
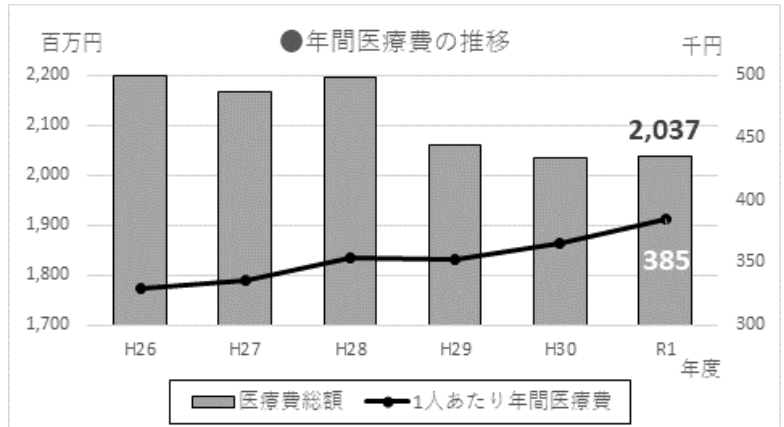
- ① 阿久比町の現状や健康課題の周知と啓発
- ② 健診結果を活用した健康づくりの推奨
- ③ 各種健康教室、健康教育の充実
- ④ 「健康日本21あぐい計画」の推進

3 医療費の適正化

・現状と課題

医療費の総額は減少しているが、1人あたり医療費は増加傾向

平成 28 年度以降、医療費の総額は減少していますが、1 人あたり医療費は増加傾向にあり、疾病別医療費では「新生物」「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」などの医療費が高く、生活習慣病による医療受診が多いものと考えられます。



男性では「新生物」が増加、男女ともに「循環器系の疾患」が多い

疾病大分類別でみた、性別 40 歳以上の成人の医療費(点数)の推移では、男性の「新生物」が大きく伸びており、男女ともに「循環器系の疾患」の医療費が高くなっています。

生活習慣病の予防や重症化予防が必要

「新生物」や「循環器系の疾患」などの生活習慣病は、生活習慣の改善などを通じて予防する取り組みが大切です。そのためには、生活習慣の改善に必要な知識や情報を身につけるための教育等の充実や健診等で治療が必要とされた場合には早期に治療を受けることを推奨する等、重症化を予防するための情報提供・啓発も必要です。

● 中間評価を踏まえた施策の方向

- ①生活習慣の改善
- ②疾病の早期発見・早期治療の推奨
- ③健康教育等の充実

保健事業の実施計画・評価

以下のとおり、中間評価の結果を踏まえて保健事業の実施計画を見直し、健康課題の解決に向けて本計画を推進していきます。

事業名		第2期計画当初		中間評価実施後		
第2期計画当初	中間評価実施後	中目標	方向性と目標	中目標	方向性と目標	事業成果
特定健診（集団健診）		特定健診 受診率の増加	特定健診受診の促進 ・特定健診受診率 60.0%（H35年度）	特定健診 受診率の向上	特定健診受診率の向上 実績：50.9%（R1年度） 目標：60.0%（R5年度） 5年連続継続受診率の向上 実績：35.9%（R1年度） 目標：40.0%（R5年度） 初回受診率の向上 実績：9.8%（R1年度） 目標：12.0%（R5年度）	自身の健康状態の把握
特定健診（個別健診）						
特定健診未受診者対策						
	若年者健診受診勧奨 <R1年度開始>					
特定保健指導 （積極的支援・動機付け支援）		特定保健指導 実施率の増加	特定保健指導実施率 積極的支援 48.1%（H35年度） 動機付け支援 <40～64歳> 52.9% <65～74歳> 69.1% （H35年度）	特定保健指導 実施率の向上 メタボ削減	特定保健指導実施率の向上 実績：65.4%（R1年度） 目標：75.0%（R5年度） ※第3期特定健康診査等実施計画 R5年度目標60.2%を達成している 特定保健指導対象者の減少 （平成20年度と比較） 実績：11.0%（R1年度） 目標：8.0%（R5年度）	メタボから脱し、 生活習慣病の重症化予防
	特定保健指導未利用者対策 <R1年度開始>					
脂質異常症いろは教室	脂質異常症予防教室	メタボ削減	各数値を 基準値に近づける	メタボ削減	特定健診中性脂肪有所見率の減少 実績：37.2%（R1年度） 目標：21.0%（R5年度）	脂質に関する意識向上、 数値の改善
血糖改善教室	糖尿病予防教室					
	糖尿病性腎症重症化予防事業 <R1年度開始>					糖尿病予備群の減少
人間ドック、脳ドック助成事業		生活習慣病 重症化予防	継続実施	疾病の早期発見 ・早期治療 疾病の 重症化予防	人間ドック・脳ドック受診率の向上 実績：4.3%（R1年度） 目標：5.0%（R5年度）	自身の健康状態の把握 ・健康意識の向上
健康まつり <R2年度まで実施>	歯と骨の健診デー <R3年度開始>					
各種検診事業						
医療費通知		疾病等医療費の削減	差額通知の配布 （4回/年）	疾病等医療費の削減	医療費通知の送付（6回/年） 疾病等医療費の削減	自身の医療受診行動と 医療費の確認・理解
ジェネリック啓発普及運動					後発医薬品使用率の向上 実績：81.6%（R1年度） 目標：82.0%（R3年度）	薬剤料の減少
ジェネリック医薬品の差額通知					ジェネリックへの切り替え促進	
健康体操		健康増進 ・介護予防	健康体操の実施 （1回/週）	健康増進 ・介護予防	国保加入者の参加者割合の増加 実績：56.5%（R1年度） 目標：60.0%（R5年度）	主体的な健康づくりへの 取り組みの推進
	低栄養予防対策 <R3年度開始>				低栄養状態に該当する者の減少 実績：0.6%（R2年度試算） 目標：0.3%（R5年度）	介護予防に関する意識向上